

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	95人	算数	95人	理科	95人
第5学年	国語	125人	算数	125人	理科	125人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

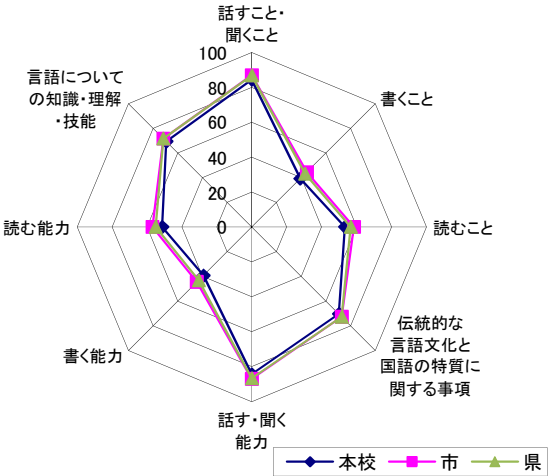
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.4	87.0	86.7
	書くこと	39.2	44.5	43.1
	読むこと	53.3	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.4	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	84.4	87.0	86.7
	書く能力	39.2	44.5	43.1
	読む能力	51.4	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	69.3	71.7	71.7



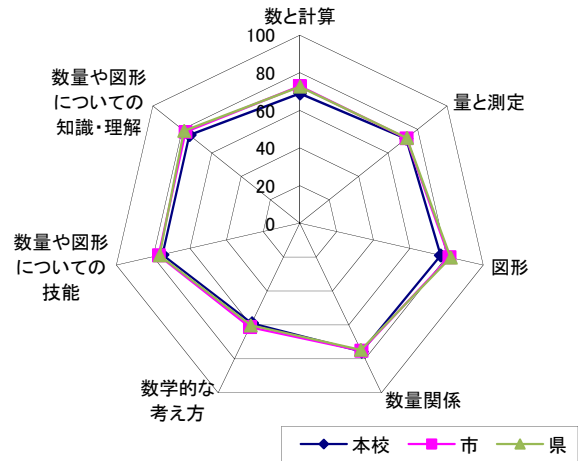
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は84.4%で、県・市の平均点をやや下回っている。話の中心を抑えながら聞き取ることが苦手な児童が多い。	・ただ相手の話を聞くのではなく、話の中で何が重要なのか考えながら、聞き取る練習をする必要がある。相手の話を聞いて、自分の考えを練り直すといった学習も多く取り入れていきたい。また、聞き取りだけでなく、授業中における発表の仕方の定着や、ペア、グループでの話し合い活動の場を設定し、指導していきたい。
書くこと	●領域の平均正答率は39.2%で、県・市の平均点を下回っている。特に作文の問題では、文章構成を理解しておらず、文の並び替えができない児童が多かったと思われる。中には手つかずの児童もいた。	・日頃から、日記や作文など文章を書いて自分の考えをまとめる学習を積み重ね、文を書くことの苦手意識をなくしていく必要がある。また、目的に応じた文章の書き方や文章構成の仕方など基本的な知識をおさえて指導していく。今回、時間内に考えがまとまらず、書き終えることのできない児童もいたので、時間内に必要な文字数を書くという練習も取り入れていきたい。
読むこと	●領域の平均正答率は53.3%で、県・市の平均点を下回っている。特に説明文では、目的や必要に応じて、文章の内容を読む設問、中心となる語や文をとらえる設問の正答率が低くなっている。	・説明文では、段落や場面の中で大切な言葉をとらえながら、接続語、指示後に注目させて、段落と段落とのつながりや構成を考えていく読み方の指導をし、説明文の読み取り方の定着を図りたい。また、設問の答え方についても指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の平均正答率は70.4%で、県・市の平均点をやや下回っている。中でも主語と述語の問題は県の正答率よりも大幅に下回っている。	・日頃から、文章の中で主語と述語を小まめに確認し、演習問題に取り組むなど繰り返し復習をすることで定着を図りたい。また、ローマ字による書き方を理解していない児童が多いので、国語の授業に限らず、パソコンを使用して調べ学習をする時間などを通して、実際に活用しながら定着を図りたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.0	72.9	72.6
	量と測定	72.2	72.4	72.6
	図形	76.7	81.4	82.1
	数量関係	75.7	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	59.0	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	75.0	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	75.1	77.8	78.8



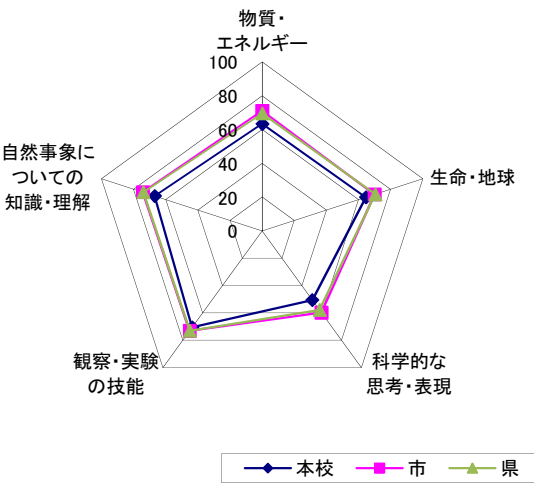
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は69.0%で、県・市の平均を下回っている。特に、3位数×2位数=4位数の正答率が低く、3位数+3位数=4位数の正答率は県の平均を大きく下回っている。これは、繰り上がりの間違いが多いと思われる。また、整数-1/10の位までの小数の計算の正答率が県の平均を大きく下回っている。	・朝の計算練習やドリル等を活用し、できるだけ多くの問題を解いて繰り返し練習することで、定着を図りたい。特に、繰り上がりや繰り下がり、かけ算九九の間違いが多く見られるので、1問ごとに丁寧に組みませ、解いた後は見直しをする習慣を身に付けさせたい。また、個別につまづいている計算を見つけ、計算の仕方を指導していきたい。
量と測定	○領域の平均正答率は72.2%で、県・市の平均とほぼ同じである。時刻と時間に関する問題の2つの映画の上映時間を求め、比較する設問の正答率は、県の平均を大きく上回っているが、ある時刻から一定時間後の時刻を求める設問では、正答率が下回っている。	・日々の生活の中で、現在の時刻から一定時間後の時刻を問う場を意識して設けることで、定着を図っていく。また、身の回りにあるものを測定させたり、表示されている量の単位を意識して見たりすることで、いろいろな量の大きさについての量感を豊かにさせていきたい。
図形	●領域の平均正答率は76.7%で、県・市の平均を下回っている。特に、円と球の設問の正答率は、県の平均を大きく下回っている。これは、学習したことが定着していないため、直径と半径について忘れていた児童が多かったと思われる。	・円と球の学習では、ボールや模型を使うなどして、視覚的、感覚的に理解させることを大切にして学習を進めていく必要がある。図形では、各部分の名称を覚えることも大切なので、教師は算数用語を繰り返し使って説明をする。児童にも算数用語を使って説明をするように促したり、ノートにまとめさせたりすることで定着させていきたい。
数量関係	○領域の平均正答率は75.7%で、県・市の平均をやや上回っている。棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を示す設問では、県の平均を上回っている。しかし、口を使った文章問題から図を、式から文章問題を選ぶ設問では、県の平均を下回っている。	・問題場面を図に表す学習活動を意図的に行っていく。その際、児童のかいた図を取り上げ、図をかいた児童が説明するだけでなく、他の児童にも説明させ、図の表し方やかく手順、気を付けること等について全体で確認していく。また、分からないものを口で表して図をかくことで、問題どおりの式に表せることを確認し、図を問題解決のための手段として活用させていきたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.4	71.1	69.6
	生命・地球	64.6	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	50.5	59.8	57.8
	観察・実験の技能	70.6	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	66.9	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●領域における平均正答率は、63.4%で、県・市の平均を大きく下回っている。また、設問別で比較しても平均を下回るものがほとんどである。特に、電気の通り道、磁石の性質など、科学的な思考の定着に課題が見られる。	・理科の学習の基本的な流れである、学習の課題を立て、予想をし、実験・観察による結果、結果からわかることをまとめる考察という展開をしっかりと授業で行っていく必要がある。特に、考察することに重点を置き、科学的な思考を高めていく。 ・ノートをしっかりと書き、自分の考えを表現する活動を取り入れていく。
生命・地球	●領域における平均正答率は、64.6%で、県・市の平均を大きく下回っている。また、設問別で比較しても平均を下回るものがほとんどである。身近な生物のようす、太陽と地面のようすなど、観察で学ぶことの定着に課題が見られる。	・理科の学習の基礎となる自然体験活動を充実させるために、児童の屋外での観察をより多く取り入れる。観察による発見や気づきは、個人の学習にとどめないよう、そのことをグループやクラスで発表するなどして、知識をさらに深めていきたい。 ・日常で何気なく目にしている自然、動植物、太陽、月、星等の事象に注目させ、その変化から、児童の「なぜ」「ふしぎ」をとらえていきたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習への取り組み全般については、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答は市平均を上回っている。「勉強していて、「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることもある」の肯定的回答は、市平均を若干下回っているが、県平均を上回っており、児童が真剣に、そして、前向きに学習に取り組んでいる様子が見えてくる。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答は市の平均を上回っている。「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答は、市平均を若干下回っているが、県平均を上回っており、自分のよさや学力を生活に役立てたいという意識が高いことがうかがえる。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」の肯定的回答は、市や県の平均とほぼ同じである。

時事問題に関心をもっていることがうかがえる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答は、市や県の平均より下回っている。学校で学習したことを定着させるためにも、家庭学習の取り組み方について継続的な指導が必要である。

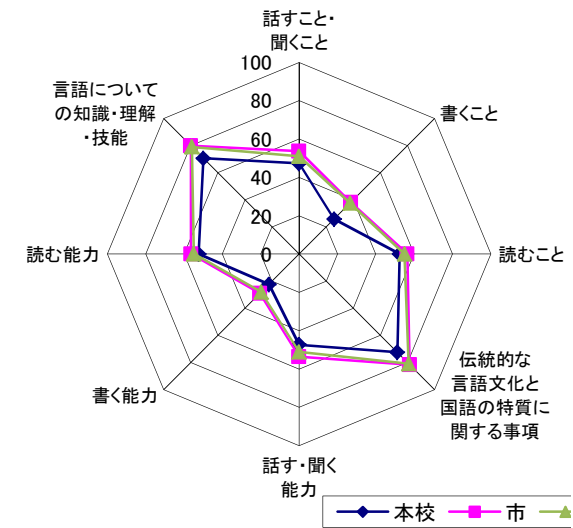
●「学校のきまりを守っている」「家でのかまりや約束を守っている」の肯定的回答は、市や県の平均より下回っている。きまりや約束を守ることの大切さを道徳や日常生活で感じ取らせる指導を行い、規範意識を高めていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答は、市や県の平均より10ポイント下回っており、自己肯定感を高めていく活動を多く取り入れていく必要がある。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	47.3	53.6	51.0
	書くこと	25.8	38.1	37.6
	読むこと	52.4	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.5	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	47.3	53.6	51.0
	書く能力	22.3	29.0	28.0
	読む能力	52.4	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	70.6	79.9	79.1



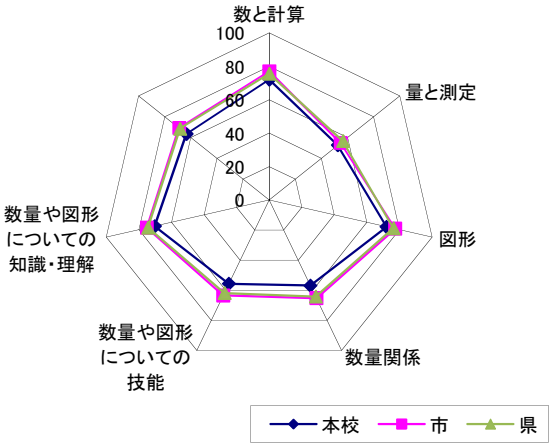
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し合いの内容の聞き取り」では、話し方の工夫に気を付けたり、司会者の進め方の工夫について聞き取ることはおおむねできていた。 ●話し合いの内容を聞き取ることはできても、互いの考えの共通点や相違点を整理して表現する力は定着していない。考えて書く問題の無回答の割合が高い。	・5年生の実態として、話を聞くことはできるが、話の内容を理解することが苦手の児童が多い傾向にある。朝の会や帰りの会など日常的に短い時間の中で、教師や友だちの話を聞く時間を設け、内容を理解しながら聞く習慣化を図っていきたい。
書くこと	●与えられたテーマに対する記事を、一定の条件にあてはめながら文章で表現する力が定着していない。県の平均を大きく下回っている。無回答の割合も12%を越えている。	・日々の生活の中で、繰り返し継続的に書く習慣をつけさせる必要がある。テーマを与えたり、条件を決めたりしながら、朝の会のスピーチやミニ日記など、文章を書く活動を積極的に取り入れ、書く練習を増やすことで力をつけていきたい。
読むこと	○説明文では、文章の内容を読み取ったり、要旨を考えたりしながら読み取ることができる。また、物語では登場人物の気持ちを想像しながら読むことができる。 ●説明文では、段落相互の関係をとらえて読み取る力が不足している。	・読書量の個人差が大きい。朝の学習等で読書の時間を確保し、学年の発達段階に合った本をすすめると共に、図書室を積極的に活用していく。 ・説明文では、段落どうしのつながりを意識できるような指導を心がけ、継続的に意識しながら読めるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の学習については、3・4年生の漢字の読みについては県の平均を上回っており定着していると思われる。また、慣用句の使い方についても、理解している児童が多くみられる。 ●読むことに比べ、漢字を書くことでのつまづきが目立った。3・4年生の漢字で県の平均を大きく下回っている。また、漢字辞典の使い方の理解が51.7%と低かった。	・書く活動の際には、既習の漢字を積極的に使うように指導すると共に、分からない漢字や言葉の意味等は、辞書を進んで活用させる。 ・補助教材を活用し、繰り返し漢字の練習をすると共に、ミニテスト等を多く取り入れ定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.1	77.0	75.6
	量と測定	52.5	54.8	56.5
	図形	72.1	77.4	76.3
	数量関係	56.9	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	55.8	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	70.3	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	63.4	69.1	68.4



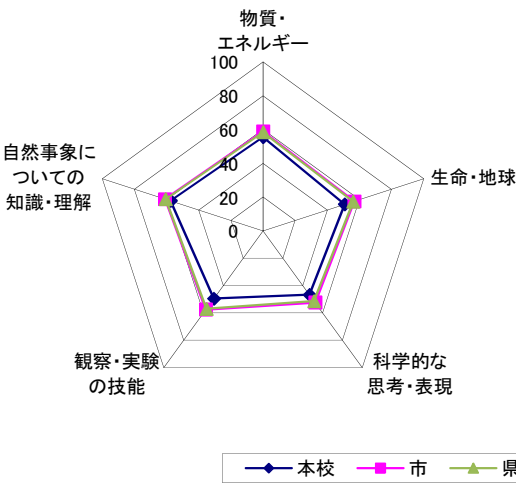
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●3位数×2位数＝4位数(被乗数に空位あり)の計算は昨年よりできていない。 ○3位数÷2位数＝2位数(余りあり, 商に空位あり)の計算は昨年より大いに正答率が上がっている。 ●1/10の位までの小数÷整数＝1/10までの小数の計算ができていない。 ●小数の相対的な大きさを理解できていないために, 数直線上に示された分数の表し方について理解できていない。	・基本的な計算はよく身に付いているが, 少し難しくなると正答率が下がってしまう傾向にあるので, 算数の苦手な児童を中心に今後もTTや習熟度別学習を生かし, 個別指導を中心に指導の強化を図っていきたい。 ・今後もチャレンジタイムだけではなく, 宿題でも計算の練習を行わせ, 定着を図っていくようにしたい。また, チャレンジシートの活用も図っていく。
量と測定	○長方形の面積を求めるや身近にあるものの面積を推察する問題は概ね理解している。 ●面積の㎡とcm²の単位の関係の理解できていない。	・面積の㎡とcm²の単位の理解に当たっては, 単位の形式的な操作の指導だけでなく, 実感が得られるような具体的な操作を意図的に設けて指導するようにしていく。
図形	○四角形の対角線の性質, 立方体の見取り図から, 辺と平行な辺について理解している。 ●立方体の展開図について理解できていない。 ●ひし形の作図について理解できていない。	・図形の作図については, きちんとかけているかよく確認しながら, 個別に対応して指導していく。 ・作図の復習問題に取り組む機会を多く設ける。
数量関係	○文章題を解くために四則混合の式を立式し, その式から正しい答えを求めることができる。 ●2つの折れ線グラフを比べて, 目盛りの取り方の違いから発言が正しくないわけについて説明することができていない。 ●計算のきまりや変わり方調べでの正答率が低い。 ●伴って変わる二つの数量の関係を式に表わすことができていない。 ●分配法則が適用できる問題場面で, 式の意味を場面と結びつけて説明することができない。	・伴って変わる2つの量の関係を式に表すような思考を伴う学習に対しては, 思考力を要する教科書巻末の問題やトピック教材を取り上げて児童に挑戦させるようにしたい。 ・計算のきまり(交換法則, 結合法則, 分配法則)が, 整数や小数でも同じように成り立つことを復習を交えながら取り組む機会を設ける。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.6	59.0	58.3
	生命・地球	50.9	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	46.7	52.5	51.4
	観察・実験の技能	49.5	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	57.6	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	領域の正答率は55.6%で県平均より2.7ポイント低く、市平均より3.4ポイント低い。 ○電気の流れのことを「電流」とよぶことがわかる問題がよくできた。 ●空気と水と一緒に閉じこめたとき、それぞれが押し縮められるかどうか考える問題や、水が氷になるときの温度変化の問題の正答率が低かった。 ●直列つなぎは電流が強くなることや、乾電池の配置によらず、直列つなぎができることを問う問題の正答率が低かった。	・自分たちの生活に関連付けて事象を考える習慣を身に付けさせるよう、授業や日々の生活の中で指導していく。 ・物質・エネルギーの領域を指導するに当たっては、予想を立てて実験を行い、結果をまとめ、考察をするという学習の展開を大切に、各々を重点的に指導することで、科学的な思考を高めていくようにする。
生命・地球	領域の正答率は50.9%で県平均より4.5ポイント低く、市平均より5.9ポイント低い。 ○春ごろに見られる動物の様子がわかる問題がよくできた。 ●人の腕を曲げたり伸ばしたりするときの筋肉の様子や、人の背中が丸く曲げられる理由を説明する問題の正答率が低かった。 ●グラフからヘチマの茎の伸びを読み取ったり、気温と伸びの関係を説明したりする問題の正答率が低かった。 ●星座早見の月日や時間の合わせ方、持ち方使い方の正答率が低かった。 ●月が東から昇り西に沈むことを応える問題の正答率が低かった。	・実験などの実際の活動を重視するとともに、インターネットやDVDなどの映像資料を活用して、具体的なイメージが持てるようにし、知識の定着を図っていくようにする。 ・観察や実験をするときには、一人ひとりが十分な時間をかけて取り組めるよう、時間の取り方や器具の個数、グループの人数などを工夫しながら指導にあたる。また、ポイントを示すなどして活動時の視点をもたせるようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○人と話すことが楽しいと感じている児童が多い。特に家の人と学習について話をしている児童が多い。
○家庭では、自分で計画を立てて学習しているという肯定的回答が、県平均とあまり変わらない。また、授業の予習を行っている児童は市、県平均を上回り、家庭学習の定着の様子が伺える。ただし、学習時間は少ない児童が多い。
○自然の中で遊んだり、自然観察をしたりしたことがある児童が多い。
●学習に対して、自分から進んで前向きに取り組んでいる児童がやや少ない。
●1か月に3冊以上本を読む児童の割合が、市、県平均よりも低い。
●学習して身に付けたことはしょう来の仕事や生活の中で役に立つと考えている児童がやや少なく、将来のゆめや目ひょうをもっている児童の割合も少ない。
●学校のきまりや家でのきまりややくそくをマナーを守っているという肯定的回答が市、県平均よりも低く、規範意識の低さがうかがえる。
●自分はクラスの中の役に立っていると思うという肯定的回答の割合が非常に低く、児童の自己有用感を高めていくような取り組みを多く取り入れていく必要がある。また、自分には良いところがある、行動や発言に自信をもっているという肯定的回答が低く、自己肯定感を高める活動も併せて取り入れていく必要がある。
●あいさつ、学校の準備、身の回りの片づけに関しての肯定的回答が低い。家庭とも協力を得ながら、継続的な指導が必要である。